

団地／それぞれの住まい歴調査 vol.5

■日時：2013年10月25日（金）15:00~17:00

■場所：男山団地中央センター1階 喫茶 Woods&Bonita

■参加者：

◇居住者：

・Uさん

◇KSDP メンバー

・星田：H

・安原：Y

・芦田：A

Y：今日はお時間を頂きましてありがとうございます。

U：いえいえいえいえ、はい。私でいいのって。どんな話か全然わからないけど。

Y：特に決まったテーマっていうことじゃなくて、色々なことをお話いただく。私Yと申します。

H：私Hと申します。

A：今日はすいません。録音を。

U：録音するの？

A：今日ちょっとボイスレコーダーが、大学行ってなかったの。これでばっちり録れます、2時間以上。

H：これってスマホ？

A：これiPhone。

H：iPhoneで録れる？

A：そうです。ちゃんと拾うんですかね？ど真ん中。

U：気遣うよ。ふふふ。

A：前お電話で言ったとおり、別に団地についてではなくて、これまでの話を。

U：お話を。一応40年住んでますね。

A：40年。

U：40年になるよね。最初からいたから。

H：最初から！？

U：最初からいるんです。行くところなく。(笑)

Y：「それぞれの住まい歴」という名前をつけているんですけどねこのシリーズは。団地には同じような家が沢山ありますでしょ。沢山の人が住んでいらっしやいますね。

けど、みなさん違う歴史をたどっておられるし、生活の様子もそれぞれ違うわけですね。一緒にひとまとめにすれば男山団地に住んでいるということになるだけでしてね。ですからそのところ、今までこのような住まい遍歴をたどってきたであとか、ここでどのような住まい方をなさったとか、ここでお子さんが大きくなられたことであとかを、そのままにお話いただければ、それで結構です。

H：今はどちらの棟にお住まいですか。

U：○です、C-○です。

A：僕の一番手前がC-1、C-2なので。

U：歩道橋ありますでしょ。歩道橋のすぐ横です。

A：街区の一番端っこ、道の一番向こう側です。

U：そうそう

H：何階にお住まいですか？

U：2階です。

Y：最初から団地にお住まいでしたか？

U：はいそうです、新築で入りました。それこそ49年の3月に引っ越して来たんです。

Y：そうですか。それ以前はどちらに住まわれていたんですか？

U：結婚する前だったので、西宮の方に、甲東園。結婚の際にこちらにきました。

Y：西宮から、男山という方向が決まったのは、ご主人の仕事の関係ですか？

U：いえ、そうではなくて、仕事は大阪市内で、一緒に同じ職場にいたんだけど、本町。あの色々な箇所かハガキを出して当たらずで、たまたま先輩がこのA棟の方について。募集をするから、新築だしけるんちがうって感じで入れたんですよ。

Y：それでも大変だったんですね。

U：そうですね。あと、待ってる人がいたり、ラッキーなんですよ。

H：じゃあこっち方面と言わず、わりとあちこちに申し込んでいたんですか。

U：そうですね。一番初めに出したのが本郷とか千里とかのいくつか。3ヶ所くらい出していましたね、その前に。

Y：そうすると、他の場所での住まいの経験がありませんから、比較してという話はないですね。

U：そうですね前は寮にいたので、

Y：それは西宮で？

U：はい甲東園、会社の寮です。一番最初は尼崎の園田、東園田にいたんです。出てきた時にそこについて、そこが普通のアパートで、1階だけを会社の女子寮として借りていたんでそこに住んで。新たに甲東園に女子寮ができたのでそっちに引っ越して。

Y：ということはお生まれになったのは西宮のほうではなくて。

U：いえ、全然。九州、鹿児島です。でも多いですよ。

Y：遠路はるばるですね。

H：就職でこちらに？

U：そうですね。

Y：それで同じ職場にいて結婚なさって、こちらに来てからも勤めていたんですよ。

U：そうです。私も13、14年近く働いたので。で、辞めてそれからずっといます。

Y：その間はお子さんは？

U：子供は一人、一人います。であの、ずっと 10 年できなかったんです。

Y：そうですか。

U：でやっと 10 年経って子供が出来て。

店員：どうぞー。(コーヒー)

A：ここのコーヒーおいしいですね。

U：おいしいコーヒーひさしぶりや。

Y：その当時の男山というのは、いまと比べてどうだったんですか。もっと不便であったとか。

U：そんなことないです。もう来た段階で桜小学校もあるし、すごい便が良かったですよ、その頃から。

Y：色んな人がここにいて。

U：そうですねー。

Y：子どもたちもたくさんいて。

U：だからみんな今でもいいので、あんまりこれ以上いいところは少ないんじゃないかな。新たに探すってのは。

Y：そのころは、いまより賑やかでしたか。

U：賑やかではないけれど、でも子どもたちも、私がきて働いている間は全然近所の人との話も出来ない。挨拶くらいしかしていなかったんで。

Y：会う機会がすくなくて？

U：そうですねー。もう朝の 7 時くらいに出て行って、夕方 6, 7 時に帰ってくるから。そうするとけっこう下で子供つれて、家族が色んな人と話してはって、そこにいてあいさつ。だんだん。んで、主人が野球とか、ここで団地の。ここでそれができたんですよ。

Y：大人の？子供の？

U：いや大人。それが出来たのでその中に入って、そのグループで仲良くなったとか。

A：男山の野球チームですか。C 地区の？

U：そうそう、ここの C 地区でね「男山八望サニーズ」。

あ、I さんと一緒にねやってはったんで。うちも会社で会社の野球をやっていたので、ここ来て休みは退屈やし。

Y：強かったんですか？

U：ええ優勝もしてましたし。今はもう若い人ばっかになってますけど。

A：今もあるんですか？

U：ええ、今も I さんの息子さんがやってます。

H：はちぼうはどのような字を。

U：漢数字の八に望む。

A：ここの地名です。8 方向見えるってことですよ、多分。山やから。

U：うん。色んなところが望めるっていう。サニーズって今でもあります。

H：その頃はご主人、若かったといえあればあれですけども、その、野球していた頃はまだ 30 とか？

U：いえもっと若かったです早くに結婚したから、まだ。21 で来てるので、主人 21 で来たから。

A：ええ！？あ、そうかー。ぼく 23 です。

U：もう結婚してたよー。

H：若いねー。

A：若い。

U：その頃からでしたよ。

Y：元気いっぱいいるころですね。ご主人はどちらから？

U：出身ですか？香川です、高松で。

A：同じく寮で。

U：ええ向こうも。向こうは大阪の大国町に寮があったのでそこに住んでました。

H：甲東園の寮といたらいいところに在ったんじゃないですか。(U の携帯が鳴る。)

U：メールやわ、ちょっと見るわ…。報徳学園の少し下のほうに、田んぼの中に在りました。そこに住んでいました。

Y：20 代で、2 人とも仕事なさってて、同じ会社へ通っていらして、すごい活発な時期ですね。

U：そうですねー。本町まで行ってました。

A：僕、毎日通ってます。

U：あ、本当ー。

A：21 の時に、ここにもう来てたんですか。

U：ええ。

A：ということは就職は 18 とか。

U：うん。高卒だから 18 で出てきましたね。

Y：そしたら、子供さんが生まれてそれで生活が少し形がかわってきたんですか。

U：そうですねその前に私が仕事やめてたんで、それから。うん、今はもう結婚して孫もいるから。

Y：もうお孫さんもいらっしゃるわけですね。

U：そうです、子供も 29 になったから、ちょっと。だから、すぐできてたらそれに 10 歳たさないと。

A：会社やめられてこっちでずっと主婦を？パートをしていたんですか。

U：子供ができるまで、できて、生まれて 1 歳になってからちょっと内職を。一応いくらか落ち着くまでは一人息子だからずっと家にいてあげようと。

Y：子供さんのお世話は当然ですけど、それ以外の生活は、他の人と一緒にする生活は？そんなことの世話は。

U：世話は、子供が小さいうちに主人が先に自治会の仕事をやりだして、だから長かったですね。私はいま自治会やって 10 何年かな。

Y：むしろ最近。

U：そうですねー。あたしも子供も少年野球などやってたんで、その間はしてないですね。高校までやってたんで、小学校 2 年生から。

Y：一番初期なら、自治会なんかも立ち上げの時期でしょう。

U：もうここにきてすぐに出来ましたね、翌年かな。もう自治会はたちあげられてありましたよ。だからみんな活発で、それこそ、うちの主人なんかもそうだけど、みんな若いからみんな元気元気。

A：そうか、僕ら世代の人が、自治会を担ったというか。

U：そうそう、今やってる人でも。

H：1973, 4 年

U：4 年かな。ま、万博。そうですね 46 年かな。7 年かな。

H：万博は 1970 年ですよ。だから 45 年ですわ。そら、みんな若い人はキラキラして。

U：万博も行ったしね、そう。

Y：皆さん一生懸命生活を作っていくというか。

U：そうですね。その頃になるとやっぱり子供が友達の

輪を広げてくれるから、丁度私お腹を、会社を（携帯になる）すいません。これはいいわ切っところ、切りました。これはあとでいい、マナーしとくわ。ごめんなさい。

- U: そう、あの頃はほんと皆やっぱ子供があれだから、私仕事辞めてそれから皆と仲良くなっていて。
- H: 辞めはったのは27, 8とか、ようするに30歳前ですよ。
- U: そうです。いや違いますよ。
- H: 子供生まれてから？
- U: いやいやいや生まれる一年前に、一年前に。(笑)
- A: 結構ややこしい。
- U: だから、えっと18で来たでしょ。13年とだから、やめたのが30越してから、31。
- A: やめて一年後に？
- U: そうそうそう。一年やめて二年か。31で33で生んだからな。
- H: 二人だけで10年ぐらいは団地に住んでらした。
- U: ん？
- H: 夫婦お二人だけでね、子供出来るまでは10年間団地に。
- U: そうですここ来てから、最初からいるから。だから、最初からいるから全然変わってないです。
- Y: 独身じゃない、子供さんのいらっしゃる時の生活というのはどんな具合だったんですか？まあ野球のチームとか、それは休みの日でしょ。
- U: あの休みになったら、私は土日が休みで、主人は水曜日と日曜日が休みで、同じ会社でも部署が違ったりして、そんなんで主人も水曜日は、あのころはお金あったからゴルフとか行ってきましたね、安いし平日は。私はもうだいたい友達と会社の。子供が生まれて、子供が縁持ってくれるから。
- Y: 繋がりになりますね。
- U: それからはこっちと近辺の同じ棟の人と仲良くなって、家族で。なん家族かで一緒になって食事行ったりとか。交代で友達の家を、今日はここで皆でお茶とか、お昼食べようかと作って食べたり。
- Y: いっぺんに繋がりが広がったというか。
- U: そうですね。やっぱね。
- Y: 皆さん同じような年格好でしょ？
- U: そうですね。まあね幼稚園があって小学校、中学校行ったらもっと広がって、野球やってたらね、そういう仲間が増えるから。
- Y: そうすると、お子さんは男の方ですか？
- U: 男。
- Y: そしたらちょっと活発な激しいお友達があつまったというか。
- U: そうですね。
- A: 野球ですもんね。
- U: 野球。あのころ丁度野球かサッカーという時期だった。子供が丁度小学二年生から野球始めたんで。あのころがだんだんサッカーになってきて。
- Y: もうそのころはサッカーは出来たのかな？
- U: そうです。サッカーのグループもあったから。
- H: Jリーグ出来るかできんかぐらい。野球、サッカーする場所あるんですか？

- U: ありますよ。サッカー有りますよ、公園ありますし。野球やったら、少年野球とかは今は小学校のグラウンドとかでやってるし、試合とかやったら上のさつき会。ああいうところとか。
- A: わかりません。
- U: なんかプールあるでしょ。ここ登っていったら。
- A: ああ、中学校とか。
- U: もうちょっと先。分からない？
- A: わかりません。
- U: ブラっといってみて。
- A: その当時から小学校で野球は？
- U: もちろんうちなんて子供が遅くにできてから、前からチームとかいっぱいありました。野球チームはあったけど。
- H: 2階だといいですね、2階は階段もねあれだし防犯も丁度ね。
- U: そうですね。用事あって5階まで上がったらしんどいし。
- A: 僕の部屋にポストするのも…
- U: もういや(笑) 下へ、今やっぱ皆降りてきてはるから、上から。
- A: 降りてきてますね。
- H: 下があげば移ってくるんですか。
- U: 4階5階の人はやっぱ時期からいうたら、70ぐらいなってるでしょ。だからもうしんどいから。
- Y: 転居したいといったら、下へ降りるのは出来るんですか。
- U: できます。
- H: それは申し込み？
- U: 申し込み、そうです。
- H: 先言っとくんですか？
- U: そうです。
- H: あーお願いしとくんか。
- U: あのここの2階にこちらで、あそこに言って。あとは中身はネットで探して、ここ空いてるとか言って、家に行つて。
- H: でも微妙に水回りとかちょっと長年の汚れとか勝手が違うんとちゃいます？同じ家でも気になりませんか？
- U: 気になりません、一緒。だから部屋がやっぱね奇数が偶数かの違いで。
- Y: それは同じ階段というわけじゃないんでしょ。
- U: 違います、他の棟。だからたまたま同じ階段であれば。
- Y: そうですね。人間の繋がりが同じでいけますよね。
- U: 最近の人はね、ここ3階なんだけど、玄関から玄関へ引っ越しされました。一番ラクな形、そう。(笑)でもやっぱね、棟変わったり階段変わったりしたら、やっぱ一回引っ越し社呼んで、おろして積んで、一個だけ階段横に来て。Iのときそうだったの。
- A: あーふふふ。
- Y: 階段一つでもどっか遠いところ行くのも一緒ですね。
- U: ねーびっくりした。いいじゃんそんなの。
- H: でもそしたら1階取り合いになりますよね。もともと皆さん若くして入ってるから、同じように年とっていくから、1階は取り合いになるんでは。

U：でもね、1階は一応高齢者向けっていうのがあるから、ここはね。

Y：1階ね、ちょっと躊躇する人ね、いらっしやいますね。

U：だからやっぱり2階がいいって。私もだからこっち来るとき2階か、せめて3階にしてね。

H：それは申し込みの時に書くんですか？

U：説明会の時に。抽選にあたって、で行った時に選べたみたいです。今からっていうか新築であれしてたから。多分空き家募集ではこってっていうのがあってね。

Y：そうですね。場所はどこでもいいからどっか選ぶっていうね、余裕はあったと。

U：だから偶然できたらこっち側がいいってね。バス停が近いから。2階いったらそこしかなかった。でもそこはバス停が近い。

A：そうですね。桜小学校（バス停）もあって。たまにそっちで。

U：近いでしょあそこ。だから私、若い時なんて家からそのバス停まで、雨が降ったら傘が必要で、あとはもう全然いらない。

A：電車？

U：もうバス屋根のところにあれしたり、いらないでしょ。

Y：あー電車がずっと行って。

U：電車と地下鉄。地下鉄やったら降りたらビルにつながってる。だからいらない。楽。

H：でも当時御堂筋沿いのビルに出勤して、新しい団地に住んで、一部の花形みたいなね。

U：いつも本町降りてすぐ、ちょうどコンピュータの、ちょうど私らが就職するときにコンピュータが今からっていうときに、時代で。私キーパンチャーとして入って、主人はコンピュータのプログラマーの方で。

Y：本当に初期で大きなコンピュータを。

U：そうですね。ほんまでっかい、こんな先行機械やから。それをやってみました。あとはちょっとやっぱり、今でいう腱鞘炎になって、で私ができなくなって部署を変わって、商品開発の方をやって、そこで辞めましたね。食品会社だったんでみんな辞めずに結構長いこと、皆女の人も勤めてました。

Y：そうですね。どこにもちょっとしっかりした人がいるっていう形がありましたね。やっぱり会社としてもすごく安定したから。

U：そうね。最後のほうは男の人と同じような仕事をもらって、やってたんで楽しかったです。辞めたくないものもあるし、子供が欲しいものもあるし。(笑)結局。

Y：切り替えはどうでした？お子さんができたから自然に切り替えられた？

U：そうですね。子供出来て、これはこれでまた楽しい。仕事は仕事で楽しかったけどね。辞めてよかったなって。区切りが、そんな感じでしたね。

Y：お子さんがだんだん大きくなられて、学校が小学校から中学校となったり、順番に大きくなっていかれるでしょ、その間の思いついていうかな、皆さん同じような道をたどっておられるけど。それって何か特

別の思いつてありました？

U：やっぱりちっちゃい時にね、ほんと病気ばかりしてたんで、病気というか、病院夜中に連れて行ったりということが本当に多かったから。ひょっとしたらなとか思ったり、変なふうに思ったりしてたけども。やっぱり野球やりだしてから元気になって。幼稚園の間もすごく一人っ子だから人見知りをするし、他の友だちの中にも入っていけない時期もあったりして、でもやっぱり見てたら、ちょっとかわいそうかなというのもあったけど、やっぱり自分でねなんでもやらしたらああできるんやーっていうのも出てきて。やっぱり幼稚園とかでも、やっぱり自分からあれやりたいこれやりたいとか音楽発表会とか。

Y：だんだん元気になって。

U：そうそうそうそう。ほんでそんなん、学校はいつて野球始めてそれが良かったのかな。最初僕に野球やらせたいからやろ？とか言ってたけど。

一同：(笑)

U：でも嫌がらずに行ってくれてたから、よかったなって。

Y：それはよかったですね。今はね、すぐ子育ての悩みとかね、そういう話がどんどん大きい話になるでしょ。昔は同じようなお子さんを育てていらっしやる方が近くにいらっしやったという事もあった。そういう安心感というかそんなものは昔の方がありましたね。

U：ありましたね。野球チームに入れた段階で知り合いもいてたし、そこに主人も休みの時には練習で、コーチとして入れさしてもらって、監督までやらせてもらったんですね。いろんな面で楽しかったです。やっぱり子供の成長も見れるし。

Y：いいですね、おとうさんも一緒に。

U：だから本当、主人は自分で野球をやってて、子供がやって、コーチに入って、そこでまた私も土日にもなったら応援に行って、それが高校まで続きましたね。

一同：おおー。

U：高校まで野球をやったから。

Y：高等学校まで野球部？

U：やってみました。怪我もしましたけどね、大きなボールはここに当たるし、歯も全部留めて。

A：ええー

U：そう、針金で一本一本留めてね、上も下も。顎がずれてぐしゃっていったって。そう府立医大に、あそこにずっと通ってたんです。

Y：その当時、当初は大変だったんですね。

U：子供もだからほら、ご飯とか食事が全然そののまま食べられないでしょ、口が開けられないし、口の隙間からストローで吸ってるから、みんなミキサーでうどんからご飯からみんな溶かして。

Y：すごいご苦労があったわけや。

U：本人も大変やけど、私が出掛けてても子供が昼帰ってくるからその時間に帰ってきて、ご飯食べさせて。遠征行くのも別個で後からまた持って行って。

A：すごいな。でも野球はできたんですか？

U：それがね、またね一番うちの子が当たってるときに

そういう怪我して。でもほんと、あれ嵌めて出させてもらって。なんか監督に言われたのは、今日は来なくていいからって言ってくださいね、この子は絶対やる子やから、しんどくてもやる子やから。結構ね頑張ってくれたのは親としてはほっとしてます。

Y: 大変でしたね。

U: そういう時期もありました。

Y: 今は笑って話しできるけど。

U: ほんとそうそうそう。

A: 夏祭り、僕も参加しましたが、活発じゃないですか。

U: 活発ですよ。

A: あれって最初の方はどんな感じでした？

U: 最初って、昔？

A: はい昔

U: 自治会でできてすぐあったと思うけど、今ほどはなかったのかな。私もそんなに参加してなかったから。最初はやっぱり子供がいらないから、友達もいないじゃないですか。で主人は自治会やってて、すぐに入っていけない自分もいてて。でもやっぱり子供ができて、それから私は参加しました。違うかな、やっぱり子供連れて、周りの友達と一緒にいくっていう。

Y: そうですよ。混ざっていくきっかけなのはね、子供さんが居ないとなかなか入っていけないですね。

U: だからそれぐらいからかな。私が入っていき出したんは。それまでは主人と一緒にやらさせてもらってたから、子供がある程度大きくなってからやね。

U: 自治会に入っただのは何年前やろ。あの大きな病気をしたんですよ、私が。

Y: ああ、そうですか。

U: くも膜下やってるし、あのここ入れてるんです。だからそのやって翌年に、主人がもうちょっとして自治会をやめたんかな、仕事も忙しいというわけで。それで私がちょっと元気になって、今度私が自治会に入っただという感じです。

Y: お子さんもそうだし、お母さんもそうだし、大きな出来事があったわけですよ。ご主人はお元気？ ずっとお元気？

U: 元気です。

Y: なんかそんなことがあるんかと。

U: そうですね。そうですね、夏祭りはね、賑やかだもんね。

A: すごいですよね。

U: みんなまわりも C 地区の、夏祭りが楽しいって周りから言ってきてもらって、同じ日にやってるけどね、今は。

Y: 昔だったらね、盆踊りなんかまだ馴染んでるといえるか、あの頃ではなかったですか？

U: あのね昔そう、盆踊りは結構踊ってましたね。やっぱりあの、練習したりして。でそれが、ある時期踊りも途切れて、一応はやぐらを建てたりするんだけど、やっぱり踊り手さんが少ないから、やぐらはやめようって言って、何年かやってなくて。ここ何年かな、やぐらを建ててるのは。

A: あれ完成形ですか？ この前の、雨降って途中で終わ

ったんですよ。

U: あれだけよ。昔はね、あの上に乗って踊ってたのよ。でももう今そういう人がいないから、今はあのまんま。不細工でしょ。

A: だいぶあの、柱と幕だけで乗れないですよ。

U: 乗れなくしたんです。

Y: だんだんやっぱり、ちょっと下火になってくるっていうかね。

U: そうなんです。

Y: 元気に踊ってる人が歳いってきましたね。

U: だからここで去年からまた踊りの練習を始めて。

A: ですよ

U: そう。

H: じゃあ音楽は上で歌うんじゃないで放送ですか？

U: そうですそうです。流して踊る、踊って貰うって感じ。

Y: 盛んな時だったら、歌う人を呼んできて上で歌ってもらってっていうのをあっちこっちでやってますね。

U: そうですね。今年はねたまたま演歌歌手を、良かったでしょ。3人呼んだんですよ。

Y: そういう人ってその頃すごく忙しいらしいですよ。あちこちイベントがあつて。

U: たまたま、男山で喫茶カラオケ屋さんに来てる人で、そこで知り合つて。

H: カラオケの客？

A: プロですよ。

U: プロですよ。

Y: カラオケの場所をきっかけにして。

U: そうそうそう。たまたまそこで知り合つて、それからずっと。

Y: カラオケってすごい盛らしいですね。

U: そうです、うちもあります。サークル、老人会が。

H: それは集会所で歌うんですか？ 集会所ですか？

U: カラオケ？

H: はい

U: いやいや、カラオケ。

Y: カラオケスタジオ。

U: 喫茶で、だからもう借りてるんです、毎月。

Y: グループでね

U: そうそうそう。月 2 回づつあるんです。だからそれはその時間 1 時から 5 時までっていうのは押さえてもらって。

A: お昼ですか？

U: 昼 1 時からね 5 時まで私らのグループが、これは老人会の方です。自治会じゃありません。

Y: あ、それは老人会とかそういった形でカラオケのサークルを作ってるらしいや。

U: そうです。

Y: ずいぶん盛んだと言うふうには聞いてます。

U: こっちだけで入っていけなくて曜日が 2 つに分かれてるんです。店も 2 つあるから。

Y: ああ〜そうかそうか。

H: 多いと歌えないですもんね、順番が。

U: そう順番ねー。

一同: (笑)

U: だってねー、12 人おって 2 曲目待っちゃうと思ったら、

絶対 40 分ぐらいかかるからね。

一同：(笑)

U：お茶飲んでしゃべって、聴いては歌って。まあ楽しいですね。

Y：まあそうですね。

U：そういうのがあるから。

A：会長さんも歌うまかったです。

U：うまいでしょ。

A：祭りで会長さんが歌ってて。

U：なんで歌うの？(笑) でもすごいね。盛り上げたがりだから。

H：踊れるような歌？ 単に歌ってたんですか？

U：いやいや、もうそれこそカラオケとかね。あの人はね、歌手はね、そういう、えっと出てこない。

H：演歌？

U：演歌というか、自分の持ち歌はもちろんだけど。

A：コピー？

U：うーん。

Y：踊れるような歌を歌ってたんですか？

U：ああ、河内音頭とかね。

H：老人会って何歳なったら入れるとかあるんですか？

U：あのね、うちはね前は 60 だったんですけど、今は 58 から入れるんです、うちは。みんなそうなのかな？

H：そうじゃないですか。

Y：だんだん年齢上げていってる。

U：それはまた名前がね、うちのとは別っこでみどり会ってというのがあって、多いですよ。

Y：そういうグループっていうのは、歳いった方のグループってのは出来やすいですわね。もっと、もう少し若い方、まあかつては皆さん若かったけども、こういうサークルみたいなものは、若い人の中にはありました？

U：私の時には無いですね。

Y：特になかった。

U：そうですね。

H：老人なったらサークルができるのかな。

一同：(笑)

Y：若いころにはここではなくて他の付き合いとかね。そういうのんは皆さんあるでしょうね。さっきのゴルフにしてもそうやしね。

U：そうですね。

H：老人って、老人会っていう言葉には抵抗ないんですか？名前変えようよって。

U：だから「みどり会」って付けたんです。

一同：(笑)

Y：みどりってすごい若い感じですね。

U：ひらがなで「みどり」で、そう、やっぱり抵抗とかあるから変えたのかな。

Y：そうやね、シルバーとか老人とか言う言葉には抵抗あるわな。

U：ねえ、そう思います。なんか 58 から、私も 59 で入りました。そう、入り入りっていわれて。今ね若い人っていても仕事行ってるでしょ。

Y：そうですね。行ってなければおかしいですね。

U：引っ越してきても、あれ？って、同じ階段でも。

Y：新しく入った人で？

U：挨拶ないですよ、出ていくときも無いですし。だからいつの間にか入って来てる、こんな人いたっけて。

A：えー、同じ階段室でもですか？

U：同じ階段室でもある。

Y：それはね、よくそういうお話を伺うんですけどね。

U：ああ、そうですか。

Y：だけど自分が若かったころを思い出したら、若かってブツと入ってきたらね、そんなに周りの人のことなんて目もくれずに生活するなんてことは不思議ではなかったんじゃないですか。

U：私が来たときは、みんな初めての人ばかりじゃないですか。

Y：皆同じ歳でしょ？その頃はね。

U：ええ、子供居てたりするけど。やっぱり同じ階段と両脇は挨拶行きましたよ。

Y：ああ、なるほどね。

U：それぐらいは。(今は) 挨拶ぐらいもぜんぜんしないでしょ。たまに、よろしく言って来はるけど。

Y：そういう仁義っていうか、ルールはだんだん廃れて行ってるかな。

U：その子らの親のそういうのがないのかなって。だからやっぱりあの大きな、それこそ一軒家とかそういう所に住んでる人なのかな、親がね。やっぱりこういうところに住んでる親だったらやっぱり教えてると思うんですよ。

Y：まあそうでしょうね。

U：たまに、なんでって思ったりすることもあります。

Y：よく話題になってますね、表札を。

U：まあ表札はさすがにないですね。やっぱりあの、個人情報って言った時代ときから出さなくなりましたね。

Y：でもね個人情報と表札は違いますね。

U：違いますよね。そう思うんだけど、どうしてほしいのやら。もろ張ってるもんね？

A：僕も作って。

Y：戸建の住宅だったらね、皆さん表札出してますもんね。

U：そうですもんね。

Y：それが並んでるわけですから。

U：そうそう。

H：近所の挨拶もありますからね。

Y：どうしてなのかな。

H：やっぱり、なんでも足りてるからちやいますか。コンビニ行ったらなんでもあるし。

U：それこそ付き合いを全然したくないって言う人はいらっしゃいますよね。

Y：それはまあ昔からあったと思いますけど。そうやな、コンビニと付き合って生活している感じになって来てるね。

U：やっぱりね、隣近所と付き合うってすごい大切だと思うんですけど、いざっていうときに。

H：40 年前だったら、ワープロどころかファックスもたぶん無い。スマホどころか情報の手段がお隣さんとかしか基本ないじゃないですか。やっとなテレビがあるぐらいで。

A：新聞とテレビと。
H：スマホあったらそんなに人と付き合わなくても済むもんね。
A：そうですね。
Y：40年前って言ったら電話すらなかなかみんな持っていないぎりぎりの頃かな、ちょっと増えてきた頃かな。
H：家に一個あるだけでしたね。
U：そうそう携帯なんてないから。ファックスがすぐですわね、私も途中で付けたん違うかな。最初は黒電話だったから。
H：停電でも地震でもあったらすぐに近所に出て、なんやろなんやろみたいな話を近隣同士でやってた。
A：たしかに、最近地震があったらスマホ見ますね。
一同：(笑)
Y：体を動かさなくなったね。
A：この前はずっとテレビつけてましたね、最近は。
U：夜中とかやったら、地震あったらぱっと起きてNHKつけるね、早いから。
Y：それがすごく酷くなってね余程のことになったら、やれ絆、絆と言いますけどね。
U：ここでも、八幡でも災害時の要支援っていうのがあって、自治会の団地の中でもハガキ出してもらって、その挙がってきた名簿で、自治会の役員と民生委員さんとかでその人を助けにいくっていうかね。まあ助けに行ったら自分らも逃げなアカンから、ここやったら災害の時は桜小学校か、そこまで行って来てなかったりしたら、その人の所に呼びに行くとかだから、余計繋がりをあれしとかなアカンと思うけど。
Y：やっぱり高齢になってくるから、さあという時に必要ですからね。
U：1人暮らし多いですもんね。女の人でも男の人でもね、ご夫婦でもね。来た時からやったら30歳の人も70歳やし。
H：一人だとなにかあったのかなみたいな時がありますでしょうね。
U：声掛けるのはあれやから、自治会やってたらいろんな人と知り合えて、行事のたびに色々向こうも声掛けてくださるし、こっちも声掛けするから。
Y：やっぱりお役目があるからという事もあるでしょうけども、ちょっと気を遣って目配りをしているっていうような事はなさってるんでしょうね。
U：人に会ったら、声をかけるだとかはありますね。
Y：どうなってるかなっていう事が、頭のどっかに引っ掛かってるのとそうでないとは全然違いますよね。
U：相手さんも覚えてくださるから、どっか他所であっても声掛けてくださるから、やっぱりそういうのを大事にしていきたいなと思います。
Y：凄い大切な役をやってらっしゃいますね。
U：いやいやいや(笑)自治会言ったら会自体がそういうあれだから、人と人の繋がりを大事にっていうのがあるから、仕事一緒にさしてもらったらそれが当たり前になってました。
Y：会長さんもいつまでも会長してるわけにはいかないですよね。
U：そうですね。
Y：やっぱり会長さんの方がご高齢なんですよ？

U：いや今いくつかな、71かな、まだ今んとこ元気ですよ(笑)怒られるわ。
一同：(笑)
Y：そりゃそうですよ。
U：メールしてもメールけーへんって(笑)、そういう人が上にいてくれるから付いていけるって思います。楽しいですよ。
Y：ちょっと個人の話に戻しますと、息子さんは結婚なさって今どっかで所帯構えていらっしゃるでしょう。
U：はい。
Y：やっぱり時々帰ってきたりする、そういう交流はありますか？
U：あります、はい。
Y：いまはお孫さん連れて帰ってくる？
U：そうですね、孫三人いるんで。たまにあの子供も平日が休みで、土日が休みじゃないんで、サービス業なんでだから平日。
Y：お近くなんですか？住んでらっしゃる場所は。
U：枚方にいます。
Y：枚方、ほな近いですね。
U：御殿山っていうところに。
Y：来やすいから、いつでも来れるって、そういう気持ちか。
U：夏祭りは来てたんですけどね嫁と、息子は仕事だったから会ってないよね。
A：会ってないですね。
U：紹介してないもんね(笑)、近くにいてくれるから。
Y：それがサラリーマンの世界ではね、この場所にいたいと思ってもそこにおれないっていう事がありますでしょう。まあそれが当然なのだけれども、その事っていうのはやっぱり家族にとってはね、ちょっと関係あったほうがいいですよな。
U：そうですね
A：鹿児島のご実家はどんな感じでしたか？
U：どんな感じ？
A：広くて。
U：広いってもう田舎やったし(笑)、父親が大工だったんですよ、親方でね、弟子取ってて。もう父親はいないですよ、父も母も、弟2人だけが残ってるから。だからいま、下で働いてた人らが工務店やったり、そこに今弟2人が入って。
Y：逆にね。
U：そうそうそう。型枠大工で働いています。
A：へー。鹿児島で？
U：鹿児島で、田舎でね、実家で。そこで責任者としてやってくれてる。
Y：たまには帰るんですか？
U：もう今全然帰らないです。もう母親も亡くなったので。
Y：そうですね。お母さんが居なくなったらあんまり行かなくなるんですよ。
U：まだ母親が居る頃は帰ってたんだけど。居なくなると、法事で帰って、それから帰らないですね。帰っても居場所が、まああるんだけど。
Y：そうですね、確かに居場所が。
U：なんかね兄妹、実家でもだんだん遠くなるでしょ、

気分的に。
Y: そりゃそうですね。
U: ねえ、皆そうだと思うんだけど。最近は何年も帰ってないです。
Y: そしたらもうここが家。
U: そうですね。
Y: ここが故郷ですね。今度はお母さんが居らっしゃる間、皆帰ってくると。お母さんが居なくなったらというのは。
U: またね、そういうのはあるかもしれないですけど。だから、空き家があるからこっちに引っ越してこないっていうんだけど。家賃同じくらいで向こうの方が、今の所が広いからいいっていうわけ。
A: へーそうなんですか。
U: ちょっとだけ広いのよ。駅からもうほんと3分ぐらいだから。
Y: 枚方の？
U: あの御殿山の。遊びには来ても引っ越してこないね。いっぱい書いたね。
A: ちょっとこれ (iPhone) が不安になってきた。
一同: (笑)
Y: 電池が？
A: いやちゃんと拾っとんのかって。
U: 拾ってるのかなって？ (笑)
H: あの、子供さんがやっとよちよち歩き出来始めた頃っていうのは、どの辺で遊んだんですか？
U: でも家の前に、それこそお祭り広場あの辺で遊んだり、近くの桜公園とか、あとは主人の休みのときには下の公園とか。いろんなところ休みのときには結構団地外で遊びに行きましたね。
H: 土が多いですね。土と草が。
U: そうですね、あのころは本当。
Y: 80年代後半ですもんね、子供さんをお産みになられたのは。
U: そうですね、83年ぐらいですね。
Y: 車はあの頃は増えて、駐車場もいっぱい出来てたわね。
U: そうですね、最初からここありました。
Y: 中にはなかったんでしょ？
U: そうそう、だから最初ここ入った時に車なかったんで、途中で結婚してちょっとしてから買ったから、ちょっと民間あっちこっち行って、最終的に途中からここに、棟間できて家の前に引っ越しました。皆あの頃っていうのは順番待ってましたもんね、駐車場の空きを。
Y: やっぱ。車を棟と棟の間に置くことが出来て、すると人間の場所がだんだん減ってきて車の場所が増えてきた。
U: 今ね、でもちょっと減ってるのかな？
Y: 車は今お使いになるんですか？
U: 私は運転免許ないです。(笑) 自転車か。取っとけばよかったと思う。
A: 僕も持ってないです。(笑)
U: 取ってないん？早く取っといた方がいいよ。子供とかが持ってるからいいけど。子供をどっか連れていくって、おもちゃを持って、車とか持って、自転車

に乗るって言ったら幼稚園入る前か、車に自転車積んで淀川の河川敷とか、ああいうところにも行って、そこでボールとか持って行ってよく遊びました。
H: ここから河川敷って言ったら北側ですか？こっちの樟葉側ですか？向こう側？
U: いえ、一番遠いところは寝屋川まで連れて行ったり。こっちも御幸橋、桜が見えるところ。
Y: ああ、桜がずっと続くところ。
U: そうそう、向こう側に運動公園があるんですよ。あの辺に行ったりとか。
H: それってどっち側？なんか、こっちに行ってたんじゃないかっていう予感がするんです。
U: こっちに行ったら樟葉の駅になるから、桜は向こう。
H: 向こうですね。
U: そうですね。
Y: あそこの桜はすごいですね。
U: 凄いですね。
Y: そういう場所は本当にいっぱいありますね。
U: そうですね、本当にまあ。もうみんなで、みんな遊びに行ってそのね公園とかで、あとその桜公園とかでみんなシート持って行ってお弁当ちょっと作って。
Y: それ桜公園というからには桜いっぱい咲く…
U: ある、そうですそうです。
Y: 花見がそこでできるわけ。
U: できますできます。うん、よそからも来られますよ。
Y: そうですね。
U: そのあの、信号のね、とこからずっと桜並木、きれいです。桜の時期に。
H: 玄関開けてすぐに、もう階段ありますけど、あそこが遊び場やったってことはないんですか？ちっちゃい子供が階段で
U: 階段で、いやそんなことなかったです。
H: あの、単なる通り場なのか…
U: 踊り場っていうか。
H: はいはい通るだけ
U: うん。
H: 遊べそうな気がすんねんけどな。小学校の遊びが色々ね、考えられそうな気がすんねんけど。
U: うちらは無かったですね。基地みたいにしてたり、秘密基地とか言うて。
H: 秘密基地ありました？
U: いや、子供の時はなかったですけどね。ごくごく最近ね。
Y: 階段の下にね？ちょっとした、あの一物入れていうかね、そんなものがあってね、そん中を基地にするとか。そういう場面を時々見かけますけどね。ここにはそういうのは無かった？
U: なかったですねえ。ただ何年か前にあの、こう庭の植え込みの所をちょっときれいに押しつぶしてシート敷いて、ゴミ箱からいうなものを集めてきて、秘密基地で言うてるのは何年か前にそこいらで…いや一昔懐かしい。そうそうそうブロック拾ってきてなんかやってたよ。
Y: それいくつぐらいの頃？
U: 小学生ですよ、低学年の。

H：うーん。
Y：それは懐かしい話ですね。
U：うちの子らはそんなより、もう外で遊…
Y：野球少年だったね、いやその頃はまだ野球は…
U：野球はまだやってないですけど、うーん、なんか外で遊んでましたね。であとはゲームがそろそろ出てきた頃かな、ゲーム機がね昔懐かしいな、ゲーム。うん、そういうのやったり。
Y：それゲーム出てきたらやっぱゲームに熱中してました？
U：やっぱり雨の日とかはやってましたねえ。みんなですねえ。
H：当時のゲームはまだテレビの画面でやるやつですか？テレビにさして。もっとこんなびっこん。
U：あもうすぐ。
H：あもうこんなあったか、あそうですか、うん。
U：うん。それで。
H：1973年。このころはまだインベーダーゲームやったかな。あの喫茶店の
U：インベーダー、ああ、あれね。
H：これがまだ1980…
U：何年か前に行ったら、どっか行ったらまだありましたね喫茶店に。ああ懐かしいあれどこいったんだろう。ボウリング場かなあ。なんか、あったよ。懐かしいと思って。うーん、あっ違うわ。あの頃はそうそう、ほんで親もはまってしまって、テレビに。あれしてましたわ。
H：ああテレビにさして。
U：そうそうそう。
H：みんなでね、うん。
U：そう、やってましたね。うん。あの頃は。
H：今なんて自分の部屋でねえ、自分だけでこうしていじって。
U：今はねえ、だから今は本当、もう、その辺でもやってますよ。子供ねえ、持って歩いて。
Y：やってます。
U：ねえ、うーん、うん。
H：あの、お住まいの中身は何か、えーと問題じゃないけど要望とかこう改装したとか、部屋の間取りとかなんか。
U：間取りもう今、それこそねえ。
Y：40年の間にさわりました？
U：いや、模様替えでも公団がやってくれる分だけはやってますけど…あと、台所を直したのと。
Y：リニューアルできれいにすること…
U：そうです。
Y：台所は変わりました？
U：台所は変わりました。その分家賃にされますけど…
Y：ああそうか。
U：洗面台もみんな変えてはるん違うかな。だからそういうのは全部、あの募集があって、やりたい人って…
Y：やりたい人ね。
U：言われて、私は洗面台はまだ昔のまんま使ってますけど。
Y：うん、下の無いやつね、それは。あの洗面器があって、今は下に箱のようなものがついてるんじゃない

ですか。
U：いや、下まで入れる所あるんだけど、あの鏡も全部ね、大きいのがついて、そこもあの、お湯も出るやつでしょ？え、違うの？
A：トイレの前ですか？
U：洗面台。
A：トイレ風呂の前ですよ、違います。僕んとこ水しか出ない。
Y：んっふっふっふ。
U：ああほんならうちと一緒にだ。ああそうなんだ。
Y：それ希望してないから。
A：そうなんですかね。
U：だから、それも。
H：そうね希望したらできるんかもしれんね。
U：でももう今やってないみたい。だから、それも、洗面台も変えたいって、まっ誰かが言いに行ったら、もうやってないんで個人でって、やったら20万ぐらいかかるんですって。
A：ふっふっふっふ
Y：ああ、自分でやってくれて。
U：そんなん。うーんまあリースでやってるから一緒なんですけどね、家賃に全部。
Y：ああ家賃に上乘せしてんのね
U：うーん。そうそう。だから、うん。家賃のなかに入ってるから一緒なんだけど。20万もねえ、いつ引越すかわからんのにねえ。まあずっと私はいるけど。
Y：そういうの、打ち切るっていうのはおかしいですねえ。やって欲しいこと言ったら。
U：なんかやってないって言われたって言ってましたねえ。
Y：やればいいのに。
U：ねえずっとねえ。家賃がねえ、あれしてできるんだったら、うーん
H：洗濯機はどうでした？
U：洗濯機？
H：洗濯機置き場。
U：洗濯機置き場は、置いて、前はもうそれこそ、あの、洗濯のホースをこっちに持ってきてたけど。あのねえ何年前かな何年か前に、下に排水盤をあれして、ほんで洗濯機の横っちょに穴があって、そこから洗濯機から直につなげるんですよ。だからもうお風呂場に、引っ張らなくっても。
Y：初めは風呂まで引っ張ってるんですね？
U：そうです。だからあたしホースにホースを足してやりました。そやったら動かさなくていいから、洗濯機を。
Y：足下は超えて行かなあかんですよ。
U：そうですそうです。だからそんなんでもよくねえ失敗して、ミスしててね、やりましたけど。一回子供がちっちゃい時あれホース抱えてキャッキャキャッキャ言って何言うてんだろて思ったらホース抱えて水かけてましたわ。あわてて行って、下に水漏れ。だから今はもうね、そういう心配がないから楽になりました。
Y：大騒ぎですよ、こんなんしたら。
U：そう。

H：子供もそれぐらいの時期が一番幸せだと思う。
 U：きゃっきゃ、気持ちいいから、かけてんだろう…洗濯が、水…ホースから出る水、汚い。そういうこともありましたね。みんなねえ、自分で壁とか変えてる人は、ふすまもうちょっとねえ。だから私はもう、ふすまのアイロンでするやつを買ってきて。
 H：畳は何回か変えた？
 U：ないです。そのままですよ。
 Y：そうですか。
 U：入ってそのまんま。
 Y：なんか敷いてるんでしょ。
 U：敷いてます。だからベランダ側はちょっとあれが足りなかったから、やけてたから、そこだけまた別個で少し足して、でも内側こうして開けてみたら、そんなに傷んでないです。
 H：敷くのは何敷いてたんですか？カーペット。
 U：あの、そうですね。あの畳だからその上に、あのカーペットとかちょっと厚めの。あの頃、家賃より高いカーペット買ってそれずっと敷いてますよ。だからその上にまた他の敷いたり、けどそれも敷きっぱなし。
 Y：そしたら畳とはいえ、やっぱり洋風の生活。そうあの広いところだけは。
 U：ん？
 Y：んーあれ、広い、台所と繋がった部屋がありますやん。
 U：はいはいはい。
 Y：そこがテーブルで。
 U：テーブル…置いて、またあの、下にもまた別個に、まあ。
 Y：椅子の生活。
 U：そうですねえ。一応置いてるけど私は座の方が好きだから、正座してます。
 Y：それはどこでも多くはそうですね、もたれるためにあるようなもんでね、ソファなんかはね。
 U：ほとんどそうしてはるん違うかな、テーブル置いて。子供が余計にいてたらやっぱり部屋いくつもいるから、それはないかもしれないけど。
 Y：ああお子さんが一人でいらっしゃったから、部屋の数はいくらに足りてた。
 U：そうですね。あの、ここでもあの、あそこあの、台所のとこの部屋とこっちの部屋とつうつうのところがあんですよ。私は真中仕切ってるでしょ。
 A：真中っていうと、
 U：部屋、部屋3つやんな。
 Y：そこにふすまがあるでしょ、そのふすまなんかもう外してどっかいって。
 U：どこの、あの台所？
 Y：台所の部屋の。
 U：ああもう外してます。もう捨てたらあかんから、箆笥の後ろに置いてます。一応出るときに元通りに、そうです、元通りにして出ないと。
 Y：まあ一応そういうことになってます。
 U：破れててもいいんですって。汚くてもいいんですって。

Y：子供さん元気だったらもうふすまなんかぼろぼろになってたんじゃない。
 U：あのねえ、それがねえ、うちの子やらなかったんですよ。だから友達が来たら友達が破って帰ってました。そのかわりよそ行ったらよその障子破ってました。ふっふっふっふ。
 Y：私もね、団地に住んでたことあったんですけど、そらもう子供も二人男おまして、もうふすまに穴が空いて、ふすま開けたてせんでも向こうへ行き来したり…
 U：うっふっふっふっふ…。
 Y：もうそういうのは全部外しましたが、一時もう、いつも開けずに行き来してました。
 U：ああ…はいはいはい。うちは部屋と部屋とで間に押し入れがあるから、うん。行けないけどね。だから北の部屋は、別個に障子をつけてもらったから、
 Y：ああー、あったかいね。
 U：そうですね。冬はね。
 Y：そこは、子供さんの部屋は狭いって。
 U：いやいや、そのそこが。
 A：北側の。
 U：北側のね。あそこが子供の部屋になって、主人が一番狭い部屋で寝てました。うっふっふっふっふ。
 Y：ああ、そっかそっか。
 U：いびきかくから。
 Y：ふっ、隔離して。
 U：ほんとうるさいんで、ふっふっふっふ。
 Y：今、あの D.I.Y.と言ってね。自分でその手直しするとか好きにしてよろしいとかいうのは、制度っていうかね。そういうのはこう、ありますよね。もう今さら家をさわるうなんて気持ちはありませんか。
 U：もう今はないー。見せてもらってびっくりした。でも、あの三畳のね、あそこだけはいいなあと思ったね。
 A：あーそうですね。
 U：うーん、押し入れをつぶしてね。
 A：あそこね、しゅっとしてますよね。
 U：そう、ああいいなあと思って、開けたとたんびっくりしたもんね、鏡だったから。えっ何？と…。赤い部屋と青い部屋。
 A：ふっふっふ。
 U：へっへっへ。ねえ。でもどうだろうね。あれなんてもうそれこそ私らの年代の人って言ったら、どうだろう、もう、変えるかなあ。
 Y：うーん、まちよつとね。
 U：若い人はね、あれかもしれないけどねえ。
 Y：もうでも物が増えてんじゃないですか。
 U：子供の分もありますしね、捨てきれない。だからやっぱりあのまだほとんど使ってないと思う、ずっとこうして使ってなくて、もうほろろほろろと思ってほったら、あれが。
 Y：そうそうそう、あとから思い出す。
 U：そういうんがあったり。
 Y：でも、もう年一回くらいね。
 U：思い切らないとねえ。
 Y：でもそういうもんですよ。

U: だから、ほんとの物置が一部屋欲しいっていうか。
Y: なかなかそんなに使い捨てて言うけどね、できませんよね。
U: ねえ、もうだいたい一部屋物置になってるんだけど。
Y: 今はお二人だから、なんぼ持っても大丈夫です。
U: そうですねえ…。ほんとねああいう感じでね、すっきりしてたらね。
Y: ここの男山に 40 年お住まいになってね、こんな人に出会ったっていう、そういう出来事ありましたか。それがなんかすごく記憶に残っているような。
U: 記憶に残ってるっていうのは…
Y: そういう、特別に言うほどのものではありませんか。
U: うーん。そうですねえ。
Y: でも親しいお友達ができたでしょやっぱり。
U: それはまあありますよ。だからまあこんだけの人と知り合えた、ていうの、それはもうね、やっぱり。宝だもんねえ。それ以外で、ていうのは、んー。だからまたうちも、2 年、3 年ぐらい前からあの、決まって。D 棟あるでしょ。
Y: 所有のそこね。
U: D 棟
A: いや、まだ賃貸あります。
U: 賃貸がもう一個あるんですよ。
Y: 向こうの。
U: そう。そこもね、昔はあの、自治会っていうのがあったんですよ。もうみんなその自治会の役をやった人が、あの、家買って引っ越ししたり、転勤になったりとか、まああと結局役員する人がいなくなって、いつのまにか自治会がもうなくなってしまったんです。でやっぱり昔を知ってる人は、自治会が欲しいと、いうあれもあって、でうちの今の会長が、あの、そっちの考えてあげようということで 3 年ほど前かな、自治会をうちの C 地区の、えーD 地区支部として発足して、でやっぱりそこでもう、まあ全員ではないですけど、40 軒ぐらいかな、入ってくれてはるんやけどやっぱりその人らとも最近親しくなって、でもやっぱり自治会に入れて良かったって。
Y: 自治会は、加入した人の集まりになってるのね。
U: そうですねえ。うーん、だからやっぱり自治会に、向こうもやっぱり最初から入ってる人は、うちより 1 年あとにできてから、40 年近いでしょ。やっぱり年配の人も多いから、やっぱりあの昔 D 棟の自治会の、そこに入ってた人が、やっぱりあのまた、お世話になって、自治会に入れて良かったわって、そういう人とやっぱりね、知り合いになれてるから、全然ね、自治会作らなければやっぱり知らないからね。
Y: そうですね。
U: だからそういうところは、うん、すごい良かったと思いますよ。ちょっと自分、役やらさしてもらって。
Y: 今ねよくあるのは、建物あっちも古くなってきたから新しくしようということで、建て直すということがね、話題になっている場面がありました。で、もう今ちょっとそれをしない方向でというようになってきてますけどね。あの一、そういうなんか新しくした、新しい建物に住みたいっていうようなことを

ですね、思っていच्छやる方っていうのはありますか？もう今でいいリフォーム、これでいけるやないかって感じですか？
U: もう今はそれこそ、それが多いいと思います。あたしの周りで。やっぱりほら一時期ねえ、びやっと出てきて、その問題が削減削減や言ってそう、あのときはえーって、どないなるんやろう。
Y: 別に何の不自由も感じていच्छやらないですか今。
U: 今ここ便利でしょ。
Y: うん、便利ですよ。
U: ちょっとあれしたら、まあ、樟葉に行けばいいし、うん、バス停はあるし。
Y: バス近いですね。
U: スーパーはあるし。
Y: なんでもありますか。
U: ありますもんね。
Y: まあここは本当に、病院もありますしね、お子さん怪我なさった時なんかすごく便利やったと。
U: そう。だから私ね、そこの高層に何年か前に、5 年ぐらい前に、引っ越して、ちょうどあの削減問題に入る前に引っ越してこられたんですよ。ここにね。そしたら引っ越してきてから削減問題なって、えー、ま高層はまた別個でしょ、エレベーターあるからね、うん。それはわかるんだけど、ここ場所もいいし、バス停も近いし、スーパー付いて病院も近いしっていうあれで引っ越してきたのに、どうなんの？すぐ言う人もいてたし。だからやっぱりあの、私ら役員してたら周りがやっぱり気になって、心配してる人もやっぱり聞きはるわけ。『U あれ、あの問題どうなった？』
H: 削減問題とは、あの、何問題？
A: これはどのぐらいの時期ですか？
U: あったのが？
A: はい、そういう話が。
U: そのあとでなったでしょ。
A: えっとー…集約化。
U: そうそうそうそうそう。
H: ああちょっときゅっと減らしはってんね。
U: それもその中に、まあその集約型として、男山団地が入ってるって。
A: それは決まっていたね。
U: ね？
H: それはなくなったの。
A: それも多分まだです。
Y: 今はもうその方向は、ここの団地に限っては無くなったんですよ？
U: ないです。まだねえ、また出てくるのかなあ。
Y: 集約して半分土地売ってというのがね。
H: やってるとこありますからねえ。
Y: 言うてた時期があったんだがここはそうではない。
A: 一旦そういうのを、多分全国的にジャンル分けみたいにしたんです。その時に入ってたんです。
U: 香里園がね、あれやったのね。
Y: そうですね。
U: でもあそこもだからやっぱりもしも、それをやりましよう言って、出て行って、さ、きれいになりまし

た。帰ってきた時の家賃もやっぱり高いから。だからもしこども、あの頃ねえ、やっぱりここ福祉施設とか病院も色々入って。で、そういうあれがあったんですよ。そういう、ここでまあつぶしてっていう話があったんですよ。でそれから一時してからだよ、それがなしになってねえ。

Y: まあそういうものは、今病院なんかもういっぱいあるしね、足りない物をこの中に作っていくっていう方向でいけばいいんだろと思うんですけどね。何か足りないものありますか？

U: 今、だから足りないって、何、だって不便…

Y: ご自身の部分で不便は何も感じてはいらっしゃらない。

U: 病院、自分のかかりつけもここだして思ったりするから。

Y: よくあるのは歳いった人のためのなにか、場所とかね、そういったこととかね。

U: 憩いの場所。

Y: そう、ま、そういうのね。

U: だからね、そういうときにそういうのもあるって感じで、だから、やっぱりそういうのは、まあ自治会でも考えてるから、今そこに。

A: 入ってますねえ。壁出来てますねえ。

U: 今壁が、テント張って、そこの前にね、ラウンジの、この道のほんとすぐ前に。

Y: あそこに、ちょっと公園という感じの広場の。

A: そこに、あの祭とかで建てる普通のテントあるじゃないですか、鉄の骨組みの、あれに今壁つけてる

U: 壁つけてるんですよ。

Y: 何をしてるんですか。

U: そこでねちょっとあの、サロンをやるかって、だからあのもう、それこそあの一人暮らしの人とかね。

Y: そこ行けば誰かに会えるという場所ね。

U: そうです。だからそこで、大げさじゃないけど小さいですよ、テント一つだから。うんだから今ただこう、こうだけ今壁が出来てるんでまだ途中なんですけど。で下にブロック敷いて、ベニヤ敷いて、そこでちょっとテーブル置いて、そこであの、コーヒーでもとかいう感じで。

A: そこまでやるんですね

U: やるんですよ。ふっふ。

Y: 今度、君たちがやるのはそれを作るわけでしょう。

A: そうですね。

Y: だからテントいらなくなるよね？

A: そうですね。

U: そこなんか野菜がどうのこうのって…

A: そうそうそうそうそう。

Y: そこへみなさん来ていただいたら。

U: うーん。

A: ちゃんと連携が出来たらね。

U: うん。もうこないだ話してきたの？

A: えーと僕いなかったんですけど、

U: ああーそかそか、言ってたね、明日来れないとか言ってる。ああそうなんだ。そこでね、あの、毎日するのかなちょっとまだそこまであれだけど、はやかったら。まあ11月？

H: そちらでは住民の方がやってるんですか？

A: 自治会の人だけ。

U: 自治会でやるんだけど、通りがかりにどなたでも寄ってくださいっていう感じで。

Y: 仮設の「縁側」を作ってる

U: そうそう、だからゆくゆくはその公園のところに、うちの今の会長、ま今ラウンジがある、ラウンジ言うてもね会議するところが、あの、あるんだけどちょっとね。でそれをもっと大きくして、その中にそういう部屋をね、一つ設けてやりたいなっていうのが今のうちの会長の夢なんですよ。

Y: ああそうですか。

U: そう。

Y: あの、ラウンジっていう呼び方で一般の集会所とは違った性格を…

U: でもあの、C 地区はあれがないからどなたでも利用出来るんです。

Y: ああそうですか。

U: だからその代わりあの、利用申し込みして。

H: 大学の刺激があったのかな。

A: いやーわかんないです。

H: ライバル意識とかね。

U: え？何が？

A: 大学の刺激があったのかなって。

Y: 同じ物…

A: 同時併行。

Y: だからもう、そんな…

U: うちのNさんも前から言ってる、でそれがやっぱり、あの、色んな方に役員会じゃないは、その総会とか、言うでしょ、会長が。そしたらみんなが待つわけよ。いついつ一って。で、会ったらまだなのまだなの？って。でそのたんびに会長に、また言われたまた言われたよーて言って、でやっとなら上げた。

Y: そうやって自然に出来る物もいいですよ。あのA君たちが作るのは自然に出来てくんじゃなくて、そういうものをそこへはめこんでいくわけね。

U: そこもそういう

A: そうです。

U: 喫茶もあるわけ？

A: 喫茶はしないです。まあまちに開かれた場として。

U: 前誰か言うてたね。

A: 誰でも来れるような。

U: まあおんなじ感じだね。

A: そうですね、おんなじ感じですよ。

Y: お茶なんか飲めた方がいいよな。

U: そうだねえ。

Y: せっかくやるんだったらテント張りよりも。

U: 一杯100円ぐらいでって。うん、いこうかと思って。

明日、明後日の先の、そうなの明後日の、あの福祉バザーがあるんですよ、福祉の。そこに、コーヒーカップを買いに行かないと。自治会で使ってるのがちいちゃいから。それで100円はちょっとかわいそうやなあ言うて、ちょっと大きめの、もうちょっと入るようなカップを見に行こうかって言う。

A: なるほど。

Y: そういう自然に出来る物ってすごく大事やと思

いますね。
 U: もうその代わり、もう一時やって人が集まらないで、
 寄ってくれなかったら、もうはい、あっさりやめま
 しょってというのが。
 Y: だから試しにテント借りて…、
 U: だから夏祭りからテント一つだけ潰さずに、
 Y: ああそっか。
 A: そうなんすよ僕ね、いや、最初あれ見てあれ？何で
 直してないんとずっとと思ってたんです。ベランダか
 ら見えるから。
 U: そうねまた建てるんあれやから、そのままです。
 A: あーなるほどね。
 U: 持ってきて、そうやっとなこないだから、であの、
 大工さんに頼んだら見積もり出したら高かったから。
 A: なんかやってんの見ました、僕、ふっふっふ。
 Y: みなさんでおやりになったんですか。
 U: そうです。
 U: それってもっと連携的なねえ。
 U: 役員で。
 Y: 中に大工さんいませんの？
 U: いてはるんやけど、見積もり出してもらったらすご
 い高かったんです。
 Y: 仕事でしたらいかん、ボランティアでやらな。
 U: ボランティアでやって欲しいです。
 H: いらなときはそっちのスペースで出しちゃって、
 こう入り込んで、出し過ぎとか、ねえ片付けんと貸
 し借りで、勉強した方がいいよ。
 Y: そうや。
 U: またねえ話したらいいんじゃない、N さんに言うて
 きた。この間あの、日曜日言うてたからなんかなあ、
 あそこなあ、野菜売らしいで一って言って。
 Y: 対抗して淘汰してしまたらいかんのやで。
 A: うん。そうですねえ。
 Y: 両方が成立するようにうまく、運営していかないと。
 U: また話しますね。
 A: 話しますか。
 H: そのためにやってんのやからねえ。
 A: 僕のこのつながり。
 U: でも野菜とかだと毎日売わけ？毎日開けるの？で
 もまだまだ決めてないの。
 A: そうですねちゃんとは決めてないです。
 Y: いやあ年中無休って言うてたよ。
 A: そうですねえ。その農家の人が入れてくれて、あと
 は学生が見てるだけ。
 U: ああ、はいはい。
 A: ていう形で、買っていいっていう。
 U: て言ったらやっぱり、団地の人もやっぱり安いでし
 よ？
 A: そうですねえ、確かに安い。100 円とか…
 H: 野菜売ったりすんの。
 U: 野菜はここで買おうとかね。
 A: あると思いますよ。
 Y: そうというのがあの、学生たちが中心になってやるん
 だけれど彼らは手足であって、あの住まってる人が
 ですねやっぱり主体になっていくというね、そうい
 う形になってきて、彼らを出しに使えばいいんです。

元気だけはありますから。
 U: そう…若いしね。
 H: そのスペースは煮炊きはしてるん、調理はしてるん。
 A: いや、してないですね。
 Y: ガスは？
 U: ガスはあるでしょ？
 Y: 喫茶店とかできる。
 H: 外で、こちらで何かを作るのに、その野菜をこうね。
 A: ああ、
 Y: 色々できるよね。
 A: ガスとか通すんですかね。
 Y: まあ。
 A: 水もガスも、
 U: きやっさんや。
 H: それがあうちはこっちを脇にやって、お手伝いし
 いいですねそっちを主役にしてあげた方がいいね。
 Y: ただね、あの、お店が並んできるとこやからお店と競
 合しないようにしないといけませんよね。まあだん
 だんのうちに。
 U: ていうか、まあわたしらも結局、憩いの場として。
 Y: うん。まあそういうのが動き出したら協力してやっ
 てください。
 A: すいません。
 U: こっちこそ。
 A: 11 月中旬を目指してます。
 U: 一緒ぐらいですよー。
 A: はい。
 U: うっふっふっふっふっふっふっふっふ
 Y: それはそれは。
 U: だから一応、11 月に入ったらっていう感じだから、
 まだほら、掘っ立て小屋じゃん。うっふっふっふ。
 A: 台風で大丈夫かなってちょっと。
 U: うんうんうんうん。心配やったけどね。
 Y: ああそうですか。
 U: まあ大丈夫だったから。ふーん、一緒ぐらいになる
 かもしれないね。
 A: 「だんだんテラス」っていう名前で。
 U: だんだん？
 A: そうです。
 U: あっ「だんだんカフェ」だったね。
 A: 前々そうです。「だんだんカフェ」とかあったその
 流れで名前はつけて。だから僕も常駐するんで、前
 より顔を合わす機会が増えてくると思うんで。
 Y: 学校行くとき以外は、ずっとここにいるんやね？
 A: 基本的には、
 Y: 骨埋めるつもりで。
 A: そっす骨埋める…骨埋めるんかなあ。
 U: 引っ越しがどうするわけ？
 A: ええと 16…えっとそれは、そう…住んだらだめな
 んです。けど…
 U: あっあかんの？
 A: でも常駐する、ふっふっふ。っていう言い方しかで
 きない。
 U: ああそうなの。
 Y: まあ寝泊まりはするわけですから。
 A: そうそうそうそう。

Y: 荷物は、いる物だけは持って行って。
 A: 全部まあ、引き払わないとだめなんで。
 U: そうだねえ。うーんそう。
 A: そうそう。それが、その引っ越しが、まああそこの契約が16日まで11月の、で、それに合わせてオープンを目指してるんですけど、下の工事が間に合うかっていう。まあ色々あります。
 U: 今やつとるな。
 A: 昨日お話しました。
 U: 中央の会長で。なるほど…。
 A: パンフレットです。
 U: よかったねえ、そんなんされると。
 Y: まあ今まだまだお元気ですけどね、ご主人共々すぐお元気だと思いますけどね。やっぱりどうしても、これから弱っていきますよね。
 U: うーん。
 Y: これはもうしょうがないんでね、いやでもそうなるんですよね。
 U: いま以上に元気出たらおかしい。うっふっふっふ。
 Y: まあ、なるかもわからないけど。やっぱりそれに向けて、おそらくそんなこと考えていらっやらないと思うけれど。あの、何か考えたりすることはありますか。まだまだ？
 U: わからん。
 Y: なにもそんな、今日明日のことのほうが。別に普通に考えていらっやってる。先のことなんか考えてない。
 U: いやー無いです。うん。のほほんとし過ぎかしらんけど。
 Y: ご病気をさった影響は今ではもう全然ないんですか？
 U: そうですね、わたしも病気いっぱい持ってるから。
 Y: ああそうか。
 U: こっぴどくじゃなくて、また糖尿もあるんです。
 Y: ベテランなんですね。
 U: ベテラン！病院通いのベテランで。であの、ステント入れてるんです、一本。だから検査が、半年に一回は検査っていう感じでまあ今んとこ、で心臓肥大がもともとあるんで。
 Y: ああそうかー。コントロールしていくことにはもう慣れていらっやる、って言ったらおかしいけど。
 U: 見た目全然ねー。
 A: そうですね。僕もびっくりしました。
 U: ねーでしょ。めっちゃくちゃ動く人だから。うーん。
 Y: あの一、動かれることは全然差し支えなしで？
 U: そうですね。
 Y: 全然、そら病気なんか関係ないんじゃないんですか。
 U: 今のとこ大丈夫ですね。一回あの血糖値が100からあったんです。もう食事でもできなくて。10日ぐらいうざーと寝てて、ほんで主人電話しても出ないから帰ってきたらもう意識がなくなっつー。
 Y: もう本物の糖尿ですねそしたら。
 U: そう。あまり食べてなくて、食べなくなったら食べてなかったんですよ。で甘いものがほしくってー正直。ほんで血糖値がぼーんって上がってー。一ヶ月近く徳州会にいましたふふ。

Y: ほー。
 A: へー。
 U: うーん。リハビリして帰ってきたけど。でこの頃には低血糖を起こすからふっふっふ。低血糖を起こしてふっふっふ。
 Y: ご主人は今はどうしてらっしゃるんですか？
 U: 働いてます。働いてますって元気です、ふっふ。うん、ちょうど60になったところだから。
 Y: そしたらまだまだ現役ですね
 U: まだ働いてます。ふふふふふ。なんせ動くのは好きです。頼まれたら嫌といえない性格で、ふふふふ。
 A: 確かに二つ返事でオッケーしてくれて。
 U: そうでしょ。もうほんまにいややったら下向いています。
 A: あはははは。
 U: 目が合わないように。ふっふっふっふ。
 A: 会議とか、自治会の会議とか、これやってくれるやつおらんかーって
 U: 誰か、誰か返事してよーって。わざと議事録書きもって誰も返事しなかったからしゃーないなっていう感じ。じゃーもーって。まあねー役員言うてもほとんど女の人も仕事やってますわ。
 Y: 大半は女性の方ですか？自治会で動いてらっしゃるの？
 U: 役員ですか？
 A: そんなことないですね。
 U: いやーうん、えーっと、いや違うよ違うよね。あの女の人は4人、5人か。5人と男の人は7人かな。
 Y: あーそうか。
 U: うーんまあ半々か。
 Y: ちょうどいい加減という感じ
 U: 役員としては。であとはもうね、あの外の行事がある時には、あとうちは代議員さんっていうのがいるんです。役員の下に各棟に二人ずつ。
 Y: グループの代表みたいな感じやね。
 U: そうそうそう、そうです。例えばA君のとこだったら4つあるから階段に。
 A: うーん。
 U: あっ違うわ、2棟だ3つだ。
 A: 僕はー。
 U: ここはいないんだ。あなたのとこは代議員さんがいないから私がやってんだ。
 A: あーそうですね。
 U: うーんそうそう。だからあの4つあるとこは2つであの20軒で一人。
 Y: はいはい。
 U: 今はもうみんなやりたくないって言って。ゆくゆくはそれもなくそうかって言ってるんだけど、だからその人らにお願いして手伝ってもら。だから夏祭りとかね、結構50人くらいの手伝いになるもんで。
 A: 大規模ですほんまに。
 U: おっきいもんね。
 A: メンチカツとか売ってますからね。
 U: 今年はねー中央さんがやりはったから。
 Y: 何か目標になるイベントのようなものがあつたら、動きが活発になるんですね。

U：そうですね
Y：ということは、ちょくちょくそういう山を生活の中に作っていかなあかん。
U：うーん。でもやっぱり一番大きい言うたら夏祭りです。
Y：夏祭り。
U：ほんであと、あの一年明けたらどんどん焼き。
Y：あー。
U：あのまたね A 君とこの前でね、あれもおつきくやるもんね。
A：へー僕知らない。
U：あ知らない？
U：餅、餅。
Y：しめ縄なんか焼いたりしはるんですか？
U：そうです。もうで一と大きくやりますよ。
A：へー。
U：ほんであとあの一餅つき。
Y：餅つき。
U：餅つきやって。
Y：それは年末？
U：ううん。そのとき
Y：あーそのとき。
U：そのときに餅つきやって、ほんであと私らが前日から豚汁炊いて。
Y：あーそっか。
U：そうそうそんなのやります。
A：それいつですか？
U：えーとね、来年1月の…
Y：1月の中頃やね大体。
U：あの一三連休くらい祭日、日曜とか。
A：是非手伝いに行きます。
U：うーんきてください。10何日くらいにやります。去年は一、去年はって今年は雪が降ったんだよね。
A：ほー。
U：前日もすごい寒くってどうしようって言ってたけど結局もうやろーって。
Y：暖かい物作るんなら寒い方が人気がある。
U：そうです。だから当日とかもサービス、ガート作って前日に。200食ぐらいかなそれでも、前日からね。そこで作って出します。であと大きいって言ったら、あと年末の夜回りくらいかな。夜回りが、それも来てください。
A：それも行きます。
H：だんだんお祭りとか催しにいま、子どもは昔よりは少ないんでしょうか。小学生…
U：えっ？なんのあれ？
H：夏祭りにしても、どんどん焼きにしても。
U：夏祭り、あつ、でも行事とかは子どもも多いですよ。
A：子どもはむしろめっちゃ行きます。
H：めっちゃ多いの？
A：はい。
H：団地の中から来んの？
U：だから子ども向けの一。
Y：むしろ団地の外も一緒に、おそらくそうでしょうね。
U：よそからもここがいいって。
A：すごい来ますよね。

U：だからね一金魚すくいとか、あと子ども言うたら。
A：輪投げ。
U：輪投げ、千本釣り。
H：住民のなかには小学生も多いんですか？
U：だいぶ減りましたね。今学校、だからもうクラス自体が大体2クラスぐらいずつしか無いですもんね、うーん。
H：周りからも、ガサって来るんですかね？
U：そうですね。
A：友達とか連れて。
U：もう今ね、あの夏祭りも、何年、2、3年前までは子ども御輿を。
Y：ああはあはあ。
U：出してたんですよ、子どもが多くって。でその御輿も引っ張りたいっていうあれが多くって、うん。ただまあここ2、3年で少ないから
Y：その子ども御輿はどこかに置いてあるんですか。
U：あるんです、うちの自治会でね。でねやっぱりもうそれについて行く役員がやっぱり年配でしょ。
Y：そうそうそう。
U：しんどいからふふふふふ。こういう若い人がいてくれたらふふふ。
Y：そうやなー。
U：昔はやっぱりねこうやって担いで、御輿担いでその御輿に1人子ども乗せて、こうやって叩いて回ってた。もう何年か前からはリアカーに乗せてふっふふ。
Y：見るだけ。ふっふっふ。
U：そう。だからぐるーっと団地回って子ども後ろにつけて回ってますよ。去年、今年もやってないですね。
H 星田：無くなった。
U：御輿置いてそのままだったのにやってないですね。
Y：やっぱりお父さん方が元気でないと、それできないですね。
U：そうですね。
Y：子どもの大きい、高校生とかが中心になってやるとかっていうのはなかなか無いんですかね。
U：その第一、高校生とかが来ないです、うーん。
Y：高校生はでて来ないですね。
A：その世代と僕の世代の息子さんとか A さんとかの娘さんとか。
U：あ、あそこは、あそうそうあの人らのね
A：そうですね自治会の。
U：うちもたぶんいてたら来るんだと思うんだけど。
Y：またしかし行って、思い出したようにやるかつ言ってね。それがまた復活するっていうようなこともね、きつとあると思う。
U：そうですねまたあると思う。その子らの一、がまた結婚してね。ふふ。
Y：そうそう。
A：あるかなー？
U：子供がね。もうその頃私らないけど、ふっふふふ。うーんあるかもしれない。
Y：いやまたここ若い子増えてきますからね。当然ね、家がちゃんと維持されていればね。
U：うーんねー。

Y: 君たちがそれやればいいやないか。
 A: そうですね。
 U: そうよねー。結構ね楽しいですよ。だから花火がね。うち花火もやるんですよ。最後に、締め。
 Y: それは夏祭りに？
 U: 夏祭りに。その代わり、つくるんも大変やもんね。ナイアガラ滝とかね。
 Y: ほう。
 U: すごいでしょあれも。
 A: すごかったですね。
 Y: あそう。
 U: ねー繋ぐんです。わざわざ買いに行つてーねー。届いたらそれを一本長いのを、8本ぐらいかな繋いで。
 A: 打ち上げも大量にあります。
 U: 打ち上げもそうよ。だからみんな周りから、あそこはC地区の花火を見に行く。
 H: こっからだとかかなり遠くからもー、花火。
 U: ん？
 Y: そら山の上やからね。
 H: 下の麓からも見えて。
 U: そうですね。
 Y: でも家の真ん中やからなー。
 U: ナイアガラの際はねー、下でピャーっと。
 H: そうですね。
 U: 長ーくやるから。
 A: 電柱にこう繋いでこういう火花。
 Y: んー垂らすわけやね。
 U: 幅広いし。ふっふ。
 Y: この男山の中でもC地区がそういうことの中心になって。
 U: うーんだからうちが一番大きいんじゃないでしょうかね。やるのも。
 Y: 自治会ね？
 U: いやー自治会はもっと他のとこでね。
 Y: ある程度のことを他でやるのか。
 U: A棟とかっていうのは、戸数が多いからやっぱり違うと思うけど。一回行つたけど、やっぱりうちの方がいいなーってふふ。
 A: 他も僕も行かないとだめですね。偵察に行かないとふっふ。
 U: うーん。そうそう。去年、去年行つたのかなー。
 Y: 日常的にはA地区とC地区っていうのは、あんまり直接は関係なしに住まれてる？
 U: 交流ですか？
 Y: まあなんかあるでしょうけど。
 U: 役員同士は一、あの上、向こうの会長さんとかみんな周りの会長さんとかはねある。その中にあの一私らは行こかー？って言われたら、はい行く行くとかいうて一緒に。だから結構他の地区の役員さんとも顔見知りになったりして、あのだから分譲のむこうの第三住宅？
 Y: ああ、ありますね。
 U: あの辺も、だから、そういうつながりって言うのはありますね。
 Y: でもこれだけ大きいと、住まってる人同士はあんまり関係…

U: そう、だから役員の中だけとかはある程度。下までって言ったらあれだけね、住民の方とはそこまではないですあんまり。
 Y: それぞれのグループでやらないといけないですね。
 U: だからやっぱりあの祭りとかいろんなイベントでもそういうところに行って、あ、あそこはこういうことをこういう風にやってたから、じゃあ俺らもこれはもうちょっと変えようかって。まあお互いそういうのは。
 A: うんうんうん。
 U: 繋がって、さっきにまた戻るけど繋がってすごい大切やと思います。
 Y: まあ違う街っていう感じですかね。
 U: うーんそうそう。
 Y: 40年間お住まいになっててすごく良かったですか？
 U: そうですねもう住めば都で。いやーほんとそんなに、何がどうのこうのって言うこともないし。今、オッケーです、オッケーですふふふ。
 Y: いやーこの後に残る物を今お作りにならないと行けない。そういう時期に入ってる。
 U: うーん今いててこういう仕事をやれて、いろんな人と知り合えて良かったかな。
 Y: そういう様に思つてやつてらっしゃる方がね、やっぱりあのたくさんいないと街は元氣にならない。
 U: そうですね、そうそうそう。やっぱりあの家にも入ったらね入ったままで買い物とか病院とか、それぐらいしか行かないっていう人もいてはるもんね。
 Y: まあーね、日常はそんなもんですよ。
 U: だからそういう人になるだけ声かけてあげようって行つて、でそれが今です。通りがけにまあどうー？寄つてかないってふっふ。そういうのでやつて行こかっていうのを今。そっちも同じようなあれなのか。
 A: そうですね。
 U: それはそれとしてね一緒にね、シェアができればね。
 H: 絶対そうせな。
 U: ね。ふっふっふ っふっふ。
 H: 意味がないよ。
 Y: 本当に大事なことをやろうとしてんねんから、とことんやらないとね。
 H: もう時間ですね。
 A: もうそろそろ終わり。
 Y: ありがとうございます。お忙しいところ。
 U: いえいえ。
 H: ありがとうございます。
 U: いえいえ。
 A: 次また数珠つなぎで、誰か紹介していただけたら。
 U: うーん。
 A: 誰にしましょ、ふっふ。
 U: 会長とか、まああの人も長いことしたりしてやつてたから。
 Y: 男の方のお話をね、聞けたらいいなっと思うんですけどね、どうしても女性の方にね。
 U: はいはいはい。もう何回やりました？
 A: そうですねもう5回目？
 U: あーそうなんや。

A：会長に言ってもらおうかなじゃあ。でも僕が声かけますけど。次、自治会長さんでふふ。

U：でももっと、もっと色々言ってもらえると思うから。

H：自治会長さんも良いしー、もっと普通のおとなしい男の人。

Y：そう普通の人。

U：おとなしい男の人。

Y：うん、ごく普通に暮らしていच्छやる方で。

U：ああそうか。ということは役員以外の…

Y：どちらでもいいんですけどね。

A：自治会の人ら活発ですよ。

Y：またあの、A 君が相談に伺いますからよろしく願います。

U：あっはっははは、はいわかりました。

A：コーヒー代は大丈夫です。

U：いいんですか。

A：はい

H：高校生とかでもいいし、小学生でもいいし。一回小学生やろか。

A：あっはっはは。

U：飴を持ってくるとかねー。

Y：若い人はね1人でなくても良いから、3人くらいかたまりでね話するいうてね。

U：A さんとも息子もいるしなー。あともまあ大体いるしなー。お父さんが見ながら言うのも良いかもしれない。

Y：まあいろんな組み合わせがあるかもしれないしね、考えてみよう。

A：はい。

以上